

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年12月12日

【評価実施概要】

事業所番号	572007839
法人名	医療法人 寿光会
事業所名	ぐるーぷほーむ『こさか』
所在地	秋田県鹿角郡小坂町小坂字上前田16-11 (電話) 0186-35-7250
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤5丁目1番地の1
訪問調査日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年11月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年12月20日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 9人
職員数	7人 常勤 7人, 非常勤 人, 常勤換算 3人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000・21,000 円	その他の経費(月額)	管理費 5,000 円	
敷金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月5日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名	
要介護1	3名	要介護2	3名			
要介護3	3名	要介護4				
要介護5		要支援2				
年齢	平均	80歳	最低	64歳	最高	89歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	福永医院 田子歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、近くに大型スーパーがあるなど立地条件のよい住宅街に位置している。玄関横のリビングは天井が高く、三方が窓に囲まれているため採光も良い。また畳敷きのスペースにはこたつが置かれているなど、明るくアットホームな雰囲気である。法人が病院を経営しており、バックアップ施設が老人保健施設となっているので、医療との連携が良く取れており、利用者、家族の安心に繋がっている。朝、夕2回のバイタルチェックや利用者の希望に応じた夜間入浴、チェック表を用いた毎晩の火気の点検等を実施しているほか、地域との結びつきのための努力等、多くの優れた取り組みを行っているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前は、危険物の管理とグループホーム便りの発行を期待されていたが、危険物の管理については、何度も職員間で話し合いを行い、危険を回避する方法を検討している。便りについては、発行の是非について家族にアンケートを取るなど、真摯に検討を行っている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、職員とも自己評価の意義を良く理解しており、自己評価には全員で取り組み、評価の過程でホームの見直しや改善に繋がるよう努力している。自己評価及び外部評価の結果は、冊子にして玄関に置かれ、誰でも見ることが出来る。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、利用者、ご家族、行政、自治会等が参加し、2ヶ月に1度定期的開催されている。この会議がきっかけで、自治会への参加や、小坂小学校からの訪問が実現したり、ご家族の思いを聞くことができたりと、ホームの地域への広がりや交流の活性化につながっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議等で提案されたご家族からの意見を、アンケートを実施するきっかけにするなど、実際のホームの運営に活かしている。また毎月、健康状態や生活の状況、ご本人からの伝言等を「近況報告書」で知らせ、ご家族とホームとの結びつきに役立てている。苦情の対応については、重要事項説明書に明記しており、玄関にも外部の相談先等を掲示していた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームは地域の自治会に入会している。秋の自治会主催のきりたんぽ会に誘われ、利用者、職員が参加している。また降雪時には近所の方が雪寄せをしてくれたり、利用者の散歩時は見守りをしてくれたり近隣との自然な交流ができています。市の立つ日や、小坂町のワイン祭り、ねぶた祭り等へも気軽に出かけて、利用者の楽しみに繋げている。

2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「触れあい、支えあい、認めあい、安らげる生活の場」を目指すホームの理念は、開設当初法人全体で作りあげたものである。この理念の高さや意図するところは、契約書や重要事項説明書の細部にわたり反映されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に掲示され誰もが常に目にすることが出来る。管理者及び職員は、月一回のミーティング時理念について話し合いを行っており、理念の確認に努めている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に入会している。今年の秋は、きりたんぼ会のお誘いが来て職員や利用者が参加している。また降雪時は近所の方が雪よせしてくれたり、近隣との自然な交流ができています。市の立つ日や、小坂町のワイン祭り、ねぶた祭り等へも気軽に出かけて、利用者の楽しみに繋げている。		管理者は、地域の一人暮らしの高齢者や、認知症介護をしている家族の方々の相談に積極的に取り組んでいきたいと考えており、今後もますます地域との交流を推進していくことが期待される。
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には管理者はじめ職員全員で取り組み、見直しや改善に取り組むよう努めている。自己評価及び外部評価の結果は、冊子にして玄関に置いてあり、誰でも見ることができる。これまでの外部評価の改善事項については、職員間で何度も話し合ったり、ご家族の意見を聞いたりと真摯に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、ご家族、行政、自治会等の参加で、2ヶ月に1度定期的開催されている。この会議がきっかけで、自治会への参加や小坂小学校からの訪問が実現したり、ご家族の思いを聞くことができたりと、ホームの地域への広がりや交流の活性化につながっている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	小坂町のグループホームは当ホームのみで、行政の担当者とは密接な関係を作っている。また1ヶ月に1度開かれている地域ケア会議に法人が参加して情報の共有に努めており、管理者も時々出席している。		
4.理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ご家族に健康状態や生活の状況、ご本人からの伝言等を「近況報告書」で知らせている。金銭の預かりは現在しておらず、その都度ホームが立て替え、利用料請求時に請求している。		現在グループホーム便りは発行していないが、便りはご家族とホームの結びつき、ホームと地域の結びつきを深める材料になるので、無理のない範囲で発行に向け取り組んでいくことが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で提案されたご家族からの意見が、アンケートを実施するきっかけになるなど、実際のホームの運営に活かされている。また苦情の対応については、重要事項説明書に明記され、玄関にも外部の相談先等を掲示していた。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	平成14年の開設以来、職員の異動は2名と少なく、馴染みの職員に常に見守られ、利用者は安心して暮らしている。ただマンネリに陥らないよう、職員は時々自己点検をしたり、研修に参加してリフレッシュを図るなどの取り組みも今後期待される。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、研修の案内を掲示して職員に周知している。また法人としても熱心に勉強会を開催しており、職員が参加しているほか、伝達にも努めている。		職員7名のうち4名が介護福祉士の資格を有するなど、職員の質の高さがうかがえる。また、法人の勉強会に熱心に参加するなど、質の向上に向け努力している。今後は外部への研修に積極的に参加する機会を作り、より一層の質の向上を目指していくことが期待される。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホームは、県のグループホーム連絡協議会に所属しており、相互のネットワークづくりに努めている。今後は、法人内のグループホームや、機会があれば他市町村のグループホームとも連絡を取り合っ、情報交換等に取り組んでいくことが望まれる。		
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	利用の希望があった場合は、事前面接を行い、ご本人の状況を十分に職員が把握してから、利用の開始をするようにしている。また利用後一ヶ月は重点的に職員がかかわる等、スムーズに生活ができるように配慮している。事前の見学は今のところ家族のみということで、状況に応じ利用される方の見学もすすめていくことが期待される。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の出来ることや得意なことを十分に把握し、台所仕事や掃除等に利用者が積極的に参加できるよう支援している。またホームの中の飾り付けは、職員が声掛けし、できる部分を行ってもらうことで温もりのある作品に仕上げ、ホームの潤いになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームの生活のあるべき姿や、福祉施設の目指すもの等にとらわれ過ぎることのないよう、あくまでも個を尊重するというスタンスで、利用者に対応している。場面、場面で意向や希望を聞くようにしており、利用者の望む生活ができるよう配慮している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス計画は、ご本人、ご家族の意向を十分にふまえて、介護支援専門員である計画作成担当者が原案を立て、サービス担当者会議で職員が意見を出し合い、より良い計画の作成を目指している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングは6ヶ月に一回行っている。この他にも必要に応じて計画の見直しを行い、現状に対応できるよう努めている。変更後は、ご本人、ご家族の同意を得ている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	バックアップ施設である老人保健施設の持っている機能を活用し、訪問看護ステーションの看護師に普段の健康管理を、また栄養士には献立のカロリー計算をしてもらっている。医療法人であり、バックアップ施設も有るということで、退去のフォローがよくなされ家族からも信頼されている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、か かりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医、かかりつけ 歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	利用前に通院していたかかりつけ医に、入居後も そのまま受診できるよう努めている。また訪問看 護師と職員でチームを作り、定期的に会議を開い たり、お互いの引継ぎをきちんとしてたりと、医療 連携体制がよく取れている。朝、夕1日2回、バ イタルチェックが行われており、優れた取り組み である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合のホームの方針は、「重度化した 場合における対応に係る指針」として定めてお り、入居時にご本人、ご家族に説明している。変 化があったときは速やかに医療機関で対応する という法人の考え方のもと、嘱託医師及び看護師と の24時間連絡体制を確保している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	訪問当日は、落ち着かない利用者に対して職員が 優しく語り掛けたり、場所を変えたりするなどし て、利用者の自尊心やプライバシーに配慮した支 援を行っていた。また個人情報の保護や身体拘束 についての方針は、重要事項説明書等に示されて いる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	職員は、職員側のリズムにならないよう常に配慮 し、また気持ちにゆとりを持つよう努めながら利 用者一人ひとりに接している。利用者のゆったり と落ち着いた様子や、食事を楽しんでいる様子か らも、利用者のペースを大切にしていることがう かがえた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在刻み食の方は3名であるが、一人ひとりの状況に応じた声掛けや静かな環境の中でせかされることなく、職員と共にゆっくりと食事を楽しんでいた。また食事の準備や片付けなどの台所仕事は、利用者の方々と職員が協力して行っていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	入浴は夜間に行っている。朝、夕2回のバイタルチェックで入浴を判断し、1番風呂が好きな方、長湯が好きな方等その方の入浴の希望にあわせて対応している。		夜間入浴を実現したり、夏場はほぼ毎日シャワー浴を実施したりするなど、入浴支援に努力していることが伺える。今後は何らかの工夫等を通じて、利用者ごとの入浴回数についても更に検討していくことが期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの中の役割である台所仕事、掃除、畑仕事、雪かき等を皆で担っている。ただ「80過ぎても台所やらねばいけねべか」の利用者の何気ない一言を尊重し、無理強いにならないよう心配りをしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは住宅街の中にあり、日常的に買い物や理美容院への外出、ドライブの支援を行っている。また一人で散歩できる方については、職員が見守りを行うと共に、近隣の方も気を配ってくれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	施錠は夜間のみで日中は鍵をかけておらず、自由に出入りができる。ただ安全確認のため裏口は鍵をかけている。今後、認知症の度合いに応じて対応が困難になる状況も考えられるが、現在の鍵をかけない支援を継続していくことが期待される。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの避難訓練を年2回実施している。その内1回は夜間想定である。また火災予防のため、ガスの始末、タバコの吸殻確認等4項目のチェックを毎日行っている。利用者の安全を守るための、優れた取り組みである。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3回の食事のほかに、午前、午後とお茶の時間を設けて水分摂取に努めている。また食事は、カロリー計算等をバックアップ施設の栄養士がチェックする体制を取っている。バイタルチェック時に体重も測るなど、利用者の健康状態に気を配っている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは天井が高く、三方が窓になっているため採光も良く、ホーム全体が明るいイメージである。リビングに設けられた畳敷きのスペースにはこたつが置かれ、利用者の皆さんが横になってゆったりとくつろぐことができる。リビングの飾り物やホーム各所の表示も手作りで、温かい雰囲気を出している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は2種類のタイプがあり、ベッドをはじめほとんどの家具等は利用者が使い慣れたものを持ち込んでいる。家族の写真が飾られていたり、好きなものを置いていたり、利用者一人ひとりが自由に、自然に過ごしていることが確認できた。		

は、重点項目。